

「ばちんこ依存問題電話相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」が報告書

# 3年間の相談件数は3000件超

P依存の人の93%は他のギャンブルをしない

パチンコ

「ばちんこ依存問題電話相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西村直之代表)が相談開始の平成18年度から20年度(18年4月1日～21年3月)まで3年間の報告書を4月30日に発行。後日業界誌にも配布した。08年度1年間の相談件数は1187件で07年度の1.4倍の件数。3年間の相談件数は3022件で、報告書はこれらの相談内容を相談件数、性別などの基本的なものから借金の有無など付随する事柄まで、26の観点到項目分けし、それぞれの数値データを基に詳細に分析した貴重な資料だ。

RSNはパチンコ・パチスロに関する依存問題解決の支援を行うことを目的に設立された非営利の相談機関で、全日遊連が立ち上げた。06年4月の開設以来、依存問題で悩み、苦しんでいる本人や家族からの電話相談を(土・日を除く)毎日受け付けている。RSNによれば、今年10月を目標にNPO法人にする準備を進めているという。

以下、報告書の内容を解説すると、電話相談の主な対象者はパチンコ・パチスロに関する依存問題を持つ本人、その影響を受けているパートナーや家族、友人と、同問題に携わっている「援助識者」(医療・福祉関係者、司法書士、各種相談員ら)。RSNの電話相談の相談員は常時3人で、日々研修を行いトレーニングを受けている。

相談件数は06年度989件、07年度846件、08年度(以下、年度

を「年」と呼称)1187件の合計3022件。08年1カ月の平均は約99件で、過去2年間と比べて月ごとの増減が少なく毎月100件前後の相談を受けている。08年の平均通話時間は約16分で、そのうち約75%が20分以内で相談終了。本人からの相談は「やめ方を教えてほしい」といった簡単な場合が多く時間は短い傾向だが、家族の場合は本人への思いや状況説明で長くなるという。08年の再度の電話は全体の9%で、07年に比べて複数回の相談が減少。

る。

## 本人からの相談比率が多いのがRSNの特徴

電話をかけてきた人を「コーラー」あるいは「相談者」と呼んでいて、このうち依存問題を持つ本人は06年43%、07年48%、08年63%と年々増加。依存問題の相談機関はアルコール、薬物などいろいろあるが、本人からの相談比率が多いのがRSNの特徴だという。

「コーラー」の性別は、過去2年と比べ08年は男性は569人と増加、女性は524人と減少。本人の相談が増加すると男性比率が高くなる。3年間の「対象者」(依存問題を持つ本人)の性別は男性67%、女性23%で、遊技参加者の男女比と近似しているという。

「相談者」と「対象者」はともに30代が多く、若い世代を中心に依存問題が広がっていると推測。一方、60代、70代の相談もあり、どの世代でも問題が起こっていることが分かる。08年の「対象者」のパチンコ開始年齢を10代、20代と答え

た男性81%に対し、女性は42%にとどまり、男性に比べ女性はその年代からでも始めていることが数

値データから推測できる。問題化(楽しめなくなった)した時期は男女ともにこの1、2年が最も多く全体の33%。10年以上長期的に問題化しているケースも22%を占める。問題が長期化するにつれ内容も深刻化するが、短い期間でも深刻化するケースもある。

のめり込んで困っているのは、07年に比べ08年はパチンコが63%と増加し、パチスロ及び「両方」が減少。このうち93%は競馬、麻雀など他のギャンブルをせず、この特化性は「ばちんこ依存問題」の特徴の一つではないかと考えられている。

## 20%が関連問題を持ちさらに半数以上が借金

3年間の「相談者」の23%がRSNの前に何らかの関連機関に相談していたが、77%はRSNが初めてで、どこに相談していいか分からず5年、10年と悩み苦しんでいた人たち。「ばちんこ依存問題」だけでなく20%の人が関連問題を持っていて、そのうち最も多いのが狭義の精神障害(躁うつ病、うつ病、総合失調症など)。少数だがアルコール、薬物、DVの問題を併せ持った

人もいたという。「相談者」の半数以上(54%)が借金をしていて、借金はなくても給与やボーナスを注ぎ込み将来への不安を感じながらもやめられない人も少なくない。借金の返済方法よりもどうやってパチンコに行かずにいられるかという話の内容になるのは皆共通している。

相談内容で知りたい内容のトップ(1818件)はやめる方法及びやめさせる方法で、「借金の返済方法」は少ない。やめられないので地元で相談できる場所を教えてほしい「パチンコにのめり込んでいる家族の対応に困り果てた」という人も多い。

3年間で「相談者」がRSNの相談電話番号を知った経路は「ホール内ポスター」が1104件と圧倒的で、08年は07年の2倍以上。08年は「対象者」本人の相談経路も「ホール内ポスター」が77%と最も多いが、インターネット経由の相談が増加したのも特徴で、RSNに賛同したホール関係者が自身のホームページ上にリンクした結果とみられている。

## 精神保健福祉センターや当事者相互援助グループ紹介

「対象者」本人は「ホール内ポスター」経由が多く、家族・友人は新聞、インターネット経由が多いことから、新聞やテレビのマスメディア情報は本人には届きにくく「ホール内ポスター」が有効と判断。さらに「どの立場にも情報が届きやすいインターネットの活用を今後

## 《総数及び月別相談件数》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2006年度	110	102	82	86	119	90	87	57	38	93	54	71	989
2007年度	72	68	52	50	66	93	72	56	33	46	63	175	846
2008年度	103	114	90	113	98	94	92	83	85	95	108	112	1187
総計	285	284	224	249	283	277	251	196	156	234	225	358	3022

## 《対象者の性別》

	男性	女性	不明・拒否	間違い・無言	総計
2006年度	679(69%)	197(20%)	31(3%)	82(8%)	989
2007年度	583(69%)	188(22%)	7(1%)	68(8%)	846
2008年度	785(66%)	297(25%)	10(1%)	95(8%)	1187
総計	2047(67%)	682(23%)	48(2%)	245(8%)	3022

## 《対象者年齢》

	10歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明拒否	総計
2006年度	0	7	146	202	111	103	44	4	2	0	370	989
2007年度	0	6	119	259	173	139	63	11	1	0	75	846
2008年度	0	6	194	375	229	187	69	20	1	1	105	1187
総計	0	19	459	836	513	429	176	35	4	1	505	3022

## 《ばちんこ開始年齢 性別比較》

総計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明・拒否	総数
男性	259(34%)	273(36%)	55(7%)	17(2%)	5(1%)	1(0%)	1(0%)	152(20%)	763
女性	33(8%)	108(28%)	74(19%)	68(17%)	33(8%)	9(2%)	0(0%)	69(18%)	394
総数	292(25%)	381(34%)	129(11%)	85(7%)	38(3%)	10(1%)	1(0%)	221(19%)	1157

## 《問題化した時期 性別比較》

総計	問題化していない	最近	2～3年	5年	10年	15年	20年以上	不明・拒否	総計
男性	35	202	99	127	86	37	27	150	763
女性	15	120	65	59	47	9	8	71	394
総計	50	322	164	186	133	46	35	221	1157

## 《相談内容 知りたい内容》

	借金の返済方法	やめ(させる)方法	地域の相談先	家族の接し方	その他	なし	総計
2006年度	56	556	159	112	90	148	1121
2007年度	20	495	153	92	44	128	932
2008年度	39	767	134	107	78	141	1266
総計	115	1818	446	311	212	417	3319

## 《紹介先》

	2006年度	2007年度	2008年度	総計
福祉事務所	1	1	1	3
クレサラの会	5	1	0	6
消費生活センター	3	1	3	7
弁護士会	4	2	4	10
その他のステップグループ	12	0	0	12
保健所	9	11	4	24
司法書士	48	10	6	64
その他	51	53	67	171
市精神保健福祉センター	95	40	43	178
医療機関(主治医戻し含む)	74	70	132	276
ワンテレポート	120	88	82	290
ギャンモン	111	116	116	343
県精神保健福祉センター	361	206	136	703
紹介先無(間違い含む)	285	229	299	813
ギャンブラーズ・アノニマス	202	219	445	866
総計	1381	1047	1338	3766

重点的に行っている。「電話の20%は日ごろの不満を話してスッキリして切る人や自分に努力してみようといった人たちで、話を聞くだけで終了。72%の

人々には他の相談機関を紹介した。相談者の地域にニーズに合う相談機関がないとか、十分対応できないまま終了することもあるという。他の相談機関としては、地域で

精神保健のサポートを受けてもらうために県や市の精神保健福祉センターの情報を積極的に紹介するとともに、「対象者」本人と家族に当事者相互援助グループ(ギャンブラーズ・アノニマス、ギャンモンの情

報を提供。すでに精神科医療機関を利用して居る人は主治医に戻すのが原則。「対象者」本人が「ホール内ボスター」を見て相談した件数は、ボスター掲示が積極的なホールが多

い地域では、ボスターの数に比例して件数が増加し、08年は神奈川県49件、静岡県48件、兵庫県47件、大阪府34件の順。石川、福井、徳島、高知の4県はゼロ。3年間では大阪、兵庫、神奈川県が上位だった。